

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

1月

No.127



特集
P2・3

2016年の宍粟市社協
理事の新春メッセージ

つながりと支え合いを大切にした
地域福祉の推進を



ひ孫と
いっしょ

シリーズ126

山崎町 葛根

すけみつ てるゆき
助光 照幸さん(83歳)

ちづこ
千津子さん(80歳)

りゅうせい
琉誓くん(3歳)

りと
璃斗くん(1歳)

すけみつ やすのり りえ
助光 恭典さん・莉恵さん

■長男・二男



平成28年正月
年頭にあたり本会理事15名から
新春メッセージをお届けします。

求められる地域力

森本 都規夫 会長

(波賀町谷)



新年のお慶びを申し上げます。
福祉を取り巻く法律の施行や改正がされており、支援を必要とする方々を地域で支え合い、助け合っていくことが求められ、自助・共助が今まで以上に重要になりました。
小地域福祉活動を進める社協として、益々役割の大切さを実感しています。
各位のご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

住んで良かった 助け合う町で

猶原 卯一 副会長

(千種町下河野)



大栗市では、既に限界集落・準限界集落化した自治会が増えつつあります。このような状況下では何をするにも助け合いが必要です。
社協のネットワークを利用して、持ち前のコーディネート機能を発揮し、少しでも住みよい地域づくりに貢献できればと考えています。

出来るなにかで…

安積 盛久 副会長

(一宮町曲里)



社協に求められる福祉事業を充実させるためには、「ヒト・モノ・カネ」を欠かすことは出来ません。いつかどこかで受けた「恩送り」の気持ちを『今、自分に出来るなにかで…』。
今年も皆様のご支援・ご協力をお願いします。

ぬくもりのあるまちづくり

野村 和男 副会長

(山崎町元山崎)



少子高齢化が進む中、地域包括ケアシステムの充実が求められています。
地域住民それぞれがお互いに助け合うことができる「ぬくもりのあるまちづくり」実現のため、社協はお手伝いしていきます。
皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

2016年の大栗市社協

理事の新春メッセージ

つながりと支え合いを大切にしたい

地域福祉の推進を



「自己実現」の力を

繋ぎましょう

伊藤 次郎 理事

(山崎町段)



人生のそれぞれの時期に生きがいや充実した生き方を目指す「自己実現」という言葉があります。その一人ひとりの「自己実現」の力を繋いで、ネットワーク化を図ることが地域福祉推進力の大きな源泉になるのではと考えます。
超大型高齢社会の到来に備えて、皆様の社協活動へのご協力・ご支援をお願いします。

地域のつながりを大切に

梶本 みゆき 理事

(山崎町庄能北)



ふれあいボランティアに参加して10年、平均年齢65歳以上の自治会中心のボランティアグループです。ふれあい喫茶、イベント、百歳体操など、自らも楽しみながら人とのつながりを大切に活動しています。

少子高齢化の中で、支え合いの心を大切にボランティアの輪が広がることを願っています。

健康長寿でいきいきと!!

山田 夕子 理事

(山崎町杉ヶ瀬)



少子高齢化が進むにつれて、大事なものは「健康寿命」。適度な運動をして、栄養に気をつけて、社会参加を心がけていきいきと暮らすことが大切ではないかと思っています。
お互いの気持ちで助け合い、支え合い、楽しい地域づくりを目指していきます。

課題山積

うすき よしひさ
薄木 喜久 理事

(二宮町百千家満)



社会福祉協議会理事に就任させて頂いてから、色々な課題がたくさんある事をあらためて知りました。悩んでも仕方がない、一つひとつ解決していくしかないと感じました。
微力ながら努めさせていただこうと思ひますので、よろしくお願い申し上げます。

皆の知恵と経験を合わせて

とちお たきこ
柝尾 多喜子 理事

(二宮町福野)



「お早うございます」 早朝の中学生の声。「右・左・右・前」 散歩中です、保育所の子どもたち。「さいなら」と家路を急ぐ子どもたちの声。
ホッとするとこの声がいつまでも地域を灯す明かりになるように「老若男女」 皆の知恵と経験を合わせて少しずつ進めて行きませんか？

「近所ボランティアの

実践を!!

やまね まさる
山根 勝 理事

(波賀町安賀)



ボランティアは、自発的に無償で奉仕活動をする人。自ら進んで社会事業に参加する人と言われています。強制されたり、義理やお付き合いでするものではありません。
命の尊さを共に大切にし、守りかばい支え合い、共に生きること。「目配り・気配り・心配り」で社協と共に「近所ボランティア」に努めましょう。

誰もが気にかけている

超高齢社会

うえだ みよこ
植田 美代子 理事

(波賀町野尻)



自分出来るお手伝いが、今までより一歩踏み出して：行政、自治会、色々な方々に大変お世話になりやと、食事やお茶を楽しむ拠点「おふくろ工房波賀のはら」が出来ました。
地域の皆さんが笑顔で出会い、お喋りをして元氣印を確かめ合つて楽しんでもらい、また、独居老人の方にお弁当の配食を考えたりと、村おこしや地域福祉のお手伝いが少しでも出来るように頑張つていきたいと思ひます。

地域で支え合う活動を

いわぶき しずよ
岩路 静代 理事

(千種町奥西山)



少子化が進み、介護を必要とする高齢者が増えている中、地域の輪づくりが求められています。
気さくで話しやすい、チョットだけ優しく、世話好きな「近所のおじさん、おばさん」の知恵袋や経験を今年も地域の福祉活動によりしく願ひします。

心も体もリフレッシュして

おおたに よしあき
大谷 義明 理事

(千種町河内)



穴栗市内で今、58の地域で「いきいき百歳体操教室」が開催されており、登録者数も千人を超えています。
健康で日々の生活を、との思いが「いきいき百歳体操教室」の参加につながっています。ふれあいを深めると共に、心も体もリフレッシュして、今年も頑張つていきましよう。

今こそ 社協が輝く時!

ひらおか ちえこ
平岡 千恵子 理事

(山崎町高下)



確実に過疎が急速に進む中、地域を活性化するには地域の特色を生かして、皆で真剣に考えるしか方法はないようです。
その時の専門的なアドバイスは、身近にいる社協の職員や行政の担当者相談して下さい。本気で皆様とこいっしょに考えます。社協理事も地域の架け橋になります。

つながりで みんなで つくる 穴栗のふくし

しみず しろう
志水 史郎 理事

(穴栗市健康福祉部次長)



住み慣れた身近な地域の方々と、各種サービス提供機関や社協、行政がそれぞれの立場で協力し支え合うことで、すべての市民が心豊かで生きがいを持ち、安心して暮らしていける穴栗市を築きあげていきましよう。

やさ
まさき

思いやりの心を育む

第46回もみの木のつどい

12月12日(土)、
宍粟防災センター
において、山の子
グループ主催によ
る第46回『もみの
木のつどい』が開
催され97人が参加
しました。

障がいのある方
や家族を招いたこ
のつどいは、山崎
町内の中学校の生
徒たちが会場の飾
り付けや出し物な
どボランティアと
して協力しています。

当日は、餅つきや学校ごと
に出し物を披露し、中学生サ
ンタがプレゼントを配るなど、
つどいを盛り上げました。

生徒からは、「貴重な体験が
できて良かった。これからも
障がい者の方との交流を大切
にしたい」など感想が聞け有
意義な時間となりました。

「中学生のみんなが参加して
くれればこそ、このつどいが
できる。これからも思いやり
の心を育てる場になるよう続
けていきたい」と、山の子グ



右写真:山崎西中の美術部による創作デジタル紙芝居などが披露されました
左写真:ALTのマシュー先生。46年の歴史の中で初めて外国の方が参加
(宍粟防災センター)

ループの皆さんからは感謝の
言葉がありました。
中学生が地域の行事に協力
し、地域に活力を与えていま
す。

(山崎支部 森井裕次)

い
ちのみや

集いの場は『地域の宝物』

東公文ふれあい喫茶「やまびこ」

東公文は、一宮町三方地区
にある世帯数51戸の自治会で
す。

今年で14年目を迎えるふれ
あい喫茶「やまびこ」は、年
10回開催され、氏神祭りでの
出店やバザーを行うなど楽し
く集まるための工夫をされて
います。

中でも12月は、地域で集ま
る場をさらに盛り上げようと
喫茶の立ち上げ時から作品展
を開催されています。

12月13日(日)、子どもから
お年寄りまで50人が公民館に
足を運びました。

事前に、福祉委員と喫茶ス
タッフが声かけを行い、子ど
もたちの自由研究や女性部の
手芸品、絵手紙などさまざま
な作品が展示されました。

「大人も子どもも地域で発表
する場があるとやりがいがあ
ります。身近にすごい人がお
られるなあと発見もあります」と
と福祉委員の田中(たなか)かよ子さん。



ふれあい喫茶「やまびこ」は3世代が集まります(東公文公民館)

地域の特性を活かした『ふ
れあい喫茶』は住民の『集い
の場』でありそこで生まれる
『つながり』は地域の宝物です。
ふれあい喫茶を運営されて
いるみなさん。地域にある宝
物を見つけて地域づくりに活
かしてみたいかがでしょ
うか。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)



や・い・は・ち トピックス

寄ってみんなでお話し合う

道谷ふれあい喫茶

12月20日(日)、道谷自治会の公民館において、ふれあい喫茶が行われ、35人が参加されました。

ふれあい喫茶は、自治会の隣保長が中心となり、年4～5回開催されています。

同自治会は、大屋町に隣接した市内の北部域に位置しています。この日は、公民館の屋根にうっすら雪が積もる肌寒い日でしたが、会場内はとも賑やかでした。

参加者からは、「昨年の小学校の統合をきっかけに、子どもの声が聞こえなくなった。寂しいなあ」などと切実な声も聞かれました。

そんな中、老人会長の段川敏夫さんは、「人が集まることを考えんなあ。何とかせんなあ」と話されます。

また、自治会長の川口金次郎さんは、「この喫茶は続けないかなあかん。集う場所がなくなるでな」と、集うことの

大切さを話されました。

ふれあい喫茶が、地域の現状や生活課題を話し合う機会になっており、なくてはならない存在になっています。

このような取り組みを社協も精一杯応援していきます。

(波賀支部 坂本幸子)



ふれあい喫茶といっしょに人権学習会を開催(道谷公民館)

お礼の手紙を音声で

朗読ボランティア「ふきのとう千種」

12月8日(火)、千種小学校4年生が、「目の見えないことについての学習」(点字や盲導犬との生活の話など全3回)の最終日を迎えました。

この日児童たちは、自分たちの手紙が声になって吹き込まれたカセットテープを聞きまし

た。これは、今回の福祉学習でゲストとして来ていただいた視覚障がい者の方へ、お礼の手紙を届けたいとの相談が同校から寄せられ、本会が、朗読ボランティアグループ「ふきのとう千種」に協力依頼し、作成されたものでした。

(千種支部 山本めぐみ)

「ふきのとう千種」は、目の不自由な方や読むことが困難な方に、社協や市の広報紙等をカセットテープに吹き込む活動を毎月されています。

児童たちは、文字や点字だけでなく、音声としても



次は自分の番かなあとドキドキ。真剣に聞き入る児童(千種小学校)

「目が不自由な人に出会った声をかけたい」「点字は難しかったけど楽しかった」と音声が流れます

はが

ちくさ

みんなの想いを 1.17神戸へ



本会職員が竹筒をコンテナに積み込みました

1月4日(月) 竹筒のコンテナ積み込み作業実施

阪神淡路大震災1.17のつどいに使用する竹筒約600本を神戸に届けるため、職員による竹筒のコンテナ積み込み作業を行いました。

この竹筒は「栄栗からみんなの想いを届けよう」と栄栗市ボランティア連絡会を中心に多くのボランティアの協力を得て作製しました。

竹筒には「希望」「未来へ」「祈り」など復興への想いや当時を振り返ったメッセージが書かれています。

阪神淡路大震災から今年で21年。震災を風化させないために、今後も追悼や復興イベント、行事等に参加、協力していきます。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

市内最高齢のボランティアグループ 平均年齢88歳!!



まだまだ元気! 今年は、干支の壁飾りを作りました



たんぽぽグループ

たんぽぽグループは、普段は捨ててしまう牛乳パックやラップの芯、布の切れ端で美しい可愛い小物作りに取り組む平均年齢88歳のボランティアグループです。

出来た手芸品は、ひとり暮らしの高齢者や市内の幼稚園や保育所、小学校のこどもたちに届けています。

元気の秘訣は、「年間50回の活動」とのことです。

(山崎支部 横山洋子)

ボランティア
センター日誌

ぶるーべりい会が サンタで登場



イキイキとした表情でサンタさんへ歌のプレゼント(一宮南保育所)

12月22日(火) サンタさんがやってきた

栄栗市内の保育所や幼稚園、福祉施設等に今年もサンタクロースがやってきました。

このサンタクロースはボランティアグループ「ぶるーべりい会」をはじめ、地域のボランティアの協力によるもので、今年は市内8か所の保育所、幼稚園等へサンタクロースが訪れ、イベントを盛り上げました。

「ボランティアのみなさんには毎年お世話になり感謝しています。サンタさんのやさしい気持ちが子どもたちに伝わります」と一宮南保育所の藤田珠美所長からうれしい言葉をいただきました。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

ボランティア
センター日誌

正しく点字が打てたかな?



みんなが打った点字を順番に読んでもらいます

12月10日(木) 下三方小学校福祉体験

一宮で活躍する点訳サークル「さいころ」が下三方小学校3、4年生12名を対象に点字教室を行いました。この日は盲導犬と生活を共にする大島千明さん(波賀町安賀)を特別講師にお招きし、盲導犬や視覚障がいについてお話を聞き、最後に点字を体験しました。

児童たちは「難しかったけど大島さんに点字を読んでもらってうれしかった」「次は自分の名前を打てるようにしたい」等の感想があり、点字や視覚障がいについて理解を深めました。

(本部・一宮支部 田中祥仁)